

児童・生徒の現状・課題

学習への興味関心は高く、課題に意欲的に取り組むことができる。受動的で、目標をもって主体的に、粘り強く取り組むことが苦手な様子がある。



学び続ける力を育むための重点目標

○キャリア教育の視点を取り入れた「振り返り」を充実させ、児童が変容を自覚し、確かな見通しをもって、主体的に学びに向かうことができる。



※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業の始めにはこれまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	81.0	85.0	
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど振り返ることができる。	82.0	85.0	

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	92.0	95.0	
②授業では学習目標の達成や学び方について振り返る場面を設定し児童が達成感を味わったり、次の目標をもったりすることができるようにしている。	92.0	95.0	

具体的な手だて①

様々な活動において学習内容を振り返る時間を設けることで、学習の見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。

具体的な手だて②

授業内外で様々な「選択」を意識させる。そのために、平素の授業において「選択肢の6つの視点」を常に意識して授業作りを行う。

具体的な手だて③

キュビナを活用したり、定着度確認テストを定期的に行ったりすることで、自身の基礎的・基本的な知識及び技能の習得状況を見通し、自己調整しながら粘り強く努力を重ねられるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・本校の研究と関連付け、「自分をみつめる力(ふりかえり)」を高められるようにする。
- ・授業観察では、授業改革の視点を意識し、お互いの授業を見合えるように呼びかける。
- ・授業改革推進プランや授業改革が書かれた紙を週案に挟むことで、常に意識できるようにする。

総括(8月)

総括(1月)